

中 守 破 離



令和7年10月17日（金）第17号

全国学力・学習状況調査の結果から

毎年4月、全国の中学校3年生対象に行われる「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。全国や広島県の結果と仁方中学校の結果を比較・分析し、改善計画を作成しました。「全国学力・学習状況調査」に関する概要をお知らせしますが、改善計画は学校のホームページにアップしていますのでご覧ください。

1 教科別学力調査の結果分析

本校の教科別成績を、全国及び広島県の平均値と比較分析しました。本校生徒の学力の優れた点と今後の指導で重点的に取り組むべき具体的な課題は次のとおりです。

(1) 国語

- ①優れた点：本校の平均正答率は62%に達し、全国平均（54.3%）及び広島県平均（55%）を7ポイント以上も上回る良好な結果でした。日々の授業で育成してきた読解力や表現力といった中核的な学力が、全国水準を大きく超えて定着しています。
- ②課題：「変換した漢字として適切なものを選択する」同音異義語に関する設問の通過率が26.1%であり、全国平均（35.2%）及び広島県平均（33.9%）を大きく下回りました。文脈に応じた適切な語彙選択能力に、課題があります。

(2) 数学

- ①優れた点：本校の平均正答率は55%であり、全国平均（48.3%）及び広島県平均（47%）を大きく上回りました。広島県全体の平均正答率は全国平均を下回っていますが、本校の学力はしっかり定着しています。
- ②課題：計算方法などの基礎的な知識はおおむね理解できている一方で、数学的用語の正確な理解や、それを活用して発展的な内容を考察する力に課題が見られます。用語の定義を正確に捉え、論理的な説明に繋げる能力の向上が求められます。

2 質問調査から見える傾向と今後の改善策

学力調査の結果から見える課題は、学習習慣と密接に関連しています。

(1) 生徒の学習習慣に関する傾向

広島県の中学生は全体として「学習習慣」に関する意識が全国平均と比較して低い傾向にあることが分かりました。学力の定着と向上には、授業内容の理解だけでなく、家庭学習を含めた主体的な学習習慣の確立が不可欠です。

(2) 具体的な改善策

- ①国語：全国平均を9ポイント以上下回った同音異義語の課題に対応するため、単に漢字を暗記させるだけでなく、言葉の背景や意味を深く考え、文脈に応じて適切な漢字を選択できるような指導を強化します。語彙に関する小テストや、文章作成の機会を増やし、実践的な語彙力の向上を目指します。
- ②数学：基礎計算は定着している一方で明らかになった数学的用語の理解不足という課題に対し、授業内で用語の定義を生徒自身の言葉で説明させたり、その用語を用いて問題の解法を記述させたりする活動を積極的に導入します。これにより、知識の正確な定着と論理的思考力の育成を図ります。

